保護者の皆様
本校の教育活動に関するアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。
本年度の学校教育評価を下記の通り公表させていただきます。
今回の結果を、次年度の学校経営に生かしていきたいと思いますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

芦原小学校長　中嶋　英雄

令和３年度　芦原小学校学校評価書

▲は目標指数を達成できなかった項目

項目	具体的取組	評価者	質問内容	目標指数(%)	結果(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
確かな学力	学びを支える学習ルールの共有と基礎学力を定着させる	教職員	漢字や計算の練習を毎日実施し、その点検を行っている	90	100	・毎月のマスターテストに向けて漢字や計算練習に熱心に取り組む児童が多い。満点賞を設けたことが意欲向上にもつながったと思われる。しかし、学年が上り内容が難しくなるにつれて定着しにくくなっている。	・漢字や計算は学習の基礎となる部分なので今後も継続した指導が必要である。授業の中で練習の時間確保はなかなか難しいので、家庭学習での継続的な取り組みや朝学習の時間などを活用していく。	・私が在学中(5、6年時)も漢字テストを毎週行っていた。大人になっても漢字に興味がもてるよう、意欲的に児童らを引っ張って欲しい。 ・工夫されている。確かに反復練習は苦手が多いと思う。苦行にならないように児童の好きな事や自然の中などで興味を持たせるように出来たらと思う。
		児　童	漢字や計算の勉強に毎日熱心に取り組んでいる	90	90			
		保護者	漢字や計算の勉強に毎日熱心に取り組んでいると思う	80	87			
	学び合う、認め合う、深め合う場を工夫し、楽しむ授業づくりを推進する 国語科教育を核として、未来への学びを研修し実践する	教職員	日々教材研究や授業研究を熱心に行っている	90	100	・授業が分かりやすくて楽しいと感じている児童が多くみられた。一人一台のタブレット端末の導入もその要因となっているのではないか。学習に対してこれまで受動的な取り組み方であった児童も、意欲的に学習に取り組んでいた。今後も学習効果を考えて、タブレット端末を使用した学習をバランスよく取り入れていく必要がある。	・「分かりやすく楽しい授業」のためにICT機器を積極的に活用していく。どのような場面で取り入れるのがより効果的か、どのような活用法があるのか、今後も研修を継続していく。	・ICT機器の活用はとても重要な今日的な課題と聞いているが、先生方のスキルに差があり、環境面での課題もあるとのことで苦労も多いかと思う。タブレット端末の導入が子ども達の意欲につながっているようなので、スキルアップや効果的な活用場面などの研修の継続を、先生方の負担にならない範囲でお願いしたい。 ・タブレットは時代的流れもあるため、拒むことはできないと思うが、個人的には何をするにも頭に吸収する幅は薄っぺらいと思う。現実と仮想をうまくつなぎ合わせて活用して欲しい。 ・タブレット端末の活用等、新しい工夫が上手く活されている。 タブレット導入についてのメリットは、 協働学習、個人に合わせた学習、学習意欲を高める、教師同士の情報交換ができることである。デメリットは、学校ごとのICT活用の差、教師の負担、子供の安全性、目が悪くなる、想像力の低下、授業準備に時間がかかる、書かなくなることである。これらの点をフォローできればと思う。
		児　童	授業が分かりやすくて、楽しい	92	89▲			
		保護者	日々の学習内容をよく理解していると思う	80	84			
	話し合い活動や発表活動を計画的に実施する	教職員	話し合い活動や発表活動を計画的に実施し、見直しも適宜行っている	90	88	・授業の中で対話的な活動はどの学級でも積極的に取り入れている。「話し合い活動・発表活動」という限定的な文言がアンケート結果に影響していると考えられる。ICT機器の活用については、教員間にスキルの差があり、また、使用するのに十分な環境が整っていないのが課題である。		・自分の意見を他の児童に伝える訓練(1分間スピーチ等)を低学年時から行ってください。
		児　童	自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりすることが、しっかりきている	90	90			
		教職員	ICT機器（パソコン、電子黒板、タブレット）を活用した授業を行っている	90	88			
		児　童	タブレットを使って学習することが楽しい	90	96			
	朝読書、読み聞かせ、家庭読書の日など読書活動を充実させる	教職員	読書活動の習慣化を図る働きかけを十分行っている	90	80▲	・朝読書の時間やちょっとした隙間時間等に本を読む児童が多くみられる一方で、こちらから促さないと本を読まない児童もいて、読む子と読まない子で二極化している。また、学校ではよく読書している児童でも、家庭でとなると読書に取り組むことは難しいようだ。	・毎月１回「家庭読書の日」を設けているが、月２回に増やす。低学年では「週末読書」として、毎週末に本を持ち帰り読書するようにする。保護者にはこれまでと同様に家庭読書を奨励していく。読書が苦手な児童には、マンガや雑誌などでもよいとし、読書の間口を広くして、できるだけ本を手にする機会が増えるようにする。	・毎年、読書活動の評価が低いという結果になるということは、これが難しい課題であることを示していると思う。家庭において日常的に読書をするということに期待するのは無理があると思う。そこで「家庭読書の日」「週末読書」といった重点取組を強化するのはよい方法だと思う。また、朝読書や隙間時間の読書はできているようなので、そういった学校生活の場面をたよりやホームページで発信して「見える化」するのもいいと思う。 ・なかなか我が家でも「本を読みなさい」と言っても行動を起こせていない。何かテーマを与えて、本に興味を持たせる指導にも期待したい。 ・低学年だけでなく全学年週末読書にすると良いかも。宿題として読書を出してくれると取り組みやすいと思う。 ・読書は大変重要である。学びの原点には言葉があり子供は言葉を大人から聞き、自分の言葉にする。やがて音を文字に換えて読むようになる。会話より読書を通じて表現を学び想像し疑似体験し経験で成長していく。ご指摘の様に学校では読書をしても家庭では読書をしない。親も読書をする姿を見せていただけたらと思う。誰もが自由に良い本を手に取れる様に地域も協力をしていきたい。 ・確かな学力に読書をあげていることにまず、学力向上には読書活動の重要性を読みとった。読むことの効果があることを学年に沿った工夫をしてみるのもよいのではないか。 ・保護者が読書しなくなり、親の姿を見ている子供もしかりと思う。読書は大事な習慣として是非お願いしたい。学校だけに押しつけるのは困難ですが、せめて学校ではとの思いである。
		児　童	学校や家で（マンガや雑誌以外の）本を毎日読んでいる	80	56▲			
		保護者	学校や家庭でよく本を読んでいると思う	80	45▲			
健康・安全	業間活動（マラソン・縄跳び）、運動遊びを充実する	教職員	児童への意識づけを十分行った	90	93	・コロナ禍での体育的活動の指導が難しい中でも、教職員が児童への啓発を継続的に行い、児童が熱心に取り組むことができていた。今後は、児童の活動の様子を保護者にもっと知らせていくことで、保護者の関心を高められるようにする。	・マラソン大会、なわとび大会などの体育的行事に限らず、業間活動についてもオープンスクールで公開したり、ホームページやお便りなどに載せたりすることで、さらなる保護者への啓発を図る。	・業間マラソン、校内マラソン大会での子ども達の姿を見ると意欲的に取り組んでいる様子が伝わってきた。先生方の声掛けや励ましが生きているのだと思う。また、昼休みに歓声をあげながら元気に外遊びをしている姿も見られよかった。年間を通して、校舎内外で運動遊びがさらに広がるといいと思う。 ・コロナで児童の活動に制限が出ている事や、発表の場に保護者が参観に制限あるが、家庭内での「今日、何があった」という会話で児童の行動に興味を持ってあげることが大事だと思う。 ・コロナ禍に関わらず、児童が様々な運動をする楽しさを実感できていると思う。反面、先生方は休みや準備に無理が無かったのかが心配である。 ・健康安全項目に対して教職員の方自身が高評価をつけている結果に、自信とやり遂げた感が数値より伝わってきた。
		児　童	業間マラソンや体力づくりに熱心に取り組んでいる	95	96			
		保護者	意欲的に取り組んでいると思う	80	79▲			
	学校生活の健康安全指導と防災訓練を通して危険から身を守る力を高める 家庭と連携し、情報モラル学習とスマートルールの啓発を行う	教職員	きめられた約束事の指導を熱心に行った	90	100	・防災避難訓練では、実際の状況を想定し、防火扉を使っての避難訓練を行ったことで、教職員も児童もこれまで以上に真剣に取り組むことができた。 ・健康指導面において、感染症対策も定着してきた。約束事を守って生活できていると答える児童の割合が非常に高く、学校全体が落ち着いた雰囲気で過ごすことができていた。 ・情報モラルに関しては、今年度のアンケートからは実態がつかみにくい内容であったため、別の項目を立てて、実態を今後把握していく必要がある。	・来年度も引き続き、実際の状況をできるだけ想定した避難訓練を行う。 ・約束事を今後もしっかりと守り、落ち着いた学校生活を送ることができるよう、引き続き指導を行っていく。	・防災避難訓練では、実際の状況を想定し、内容に変化をもたせているとのことで、素晴らしいと思う。教職員、児童双方に、最新の知見で防災教育を行う意味でも、緊張感をもたせマンネリを防ぐ意味でも継続して欲しい。 ・情報モラルについて、高学年になれば、携帯やタブレットゲームで友人とつながる機会が増えるはずである。ささいな事でトラブルを増える起きる事が予想されるので保護者の見守りも必要である。 ・児童、保護者とも良い結果である。防災避難訓練を登下校時の設定や児童自ら地域防災マップを作製し危険な場所、避難経路を発見する事により将来の地域防災リーダーとして成長して貰いたい。今後も不審者対策の定期的な訓練をお願いしたい。 ・災害も昔は忘れた頃にと申したが、今では数えられない位多くなり、訓練がマンネリ化するのが怖い。家庭共々連携してお願いしたい。
		児　童	きめられている約束事をいつも守っている	96	97			
		保護者	約束事をいつも守っていると思う	80	90			
	家庭と連携し、「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」に取り組む	教職員	児童や家庭に啓発を積極的に行った	90	100	・今年度は眠育の授業を行ったことで、よい睡眠をとる必要性について理解を深めることができた。また、早寝・早起きの時間をはっきりと決め、守ろうと努力する児童が増えてきた。保護者の意識も変わってきた。 ・「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」については、学校側の働きかけだけでは難しく、家庭との連携が不可欠。そのため、眠育について保護者の理解が非常に重要である。	・「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」のさらなる啓発のため、学校においては、定期的に「早寝・早起きカード」を使ってチェックを行い、定着を図る。 ・「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」の定着を図るため、眠育について保護者も話を聞き、理解を深められるような場を設ける。	・芦原小の困難な課題の一つ「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」に向け、「眠育」に取り組まれたのは大きな成果だと思う。家庭を巻き込む手立てを講じながら、子ども達に定着を図っていく次年度の取組が楽しみである。 ・眠育についての情報をチラシだけでなくホームページ等での周知を図ってはどうか。 ・児童は夜更かしが続くと攻撃的になったり不登校になりやすくなる。ゲームやTVは、親子の会話も減る。保護者が自信をもって指導してほしい。さらに保護者の躾を心配する。民生活動の訪問時、履き物を揃えてなく一体何人家族かと思う時がある。親は子供には履き物を揃える意味を教えて欲しい。「脚下照顧」という言葉がある。「他に対して理屈を言う前に自分の足元をよく見て自己反省する」。履き物を揃えれば、心も揃う。 ・早寝早起きに対して児童が正直に答えていることにまず印象をもった。改善策にもあげられているとおり、保護者とどのような手立てで投げかけていくのかが注目でいるところである。
		児　童	「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」ができている	90	81▲			
		保護者	できていると思う	80	80			

項目	具体的取組	評価者	質問内容	目標指数(%)	結果(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
豊かな心・特別支援	思いやりの心、認め合う心を育てるため学校行事、縦割り活動、「なかよしタイム」に取り組む	教職員	思いやりや感謝の心を積極的・計画的に指導している	90	100	・去年より縦割り班活動や異学年交流ができるようになり、学級でも下級生に対する関わり方を指導する機会が増えた。下級生から「ありがとう」と言われたことで、もっと優しく関わろうとする気持ちも高まったようだ。	・異学年交流を行うことで認め合う心が育つ。そこで定期的な縦割り班活動や積極的な異学年交流授業を行う。	・コロナ禍に異学年交流や縦割り班活動が進められたのはよかった。来年度さらにできることを増やし充実させて、子ども達の「認め合う心」「成就感」「自己肯定感」につながるとよい。 ・私が在学中にはなかった活動であるので、今後も継続して行って欲しい。地区によっては児童数の減少で子ども会活動の無いところもあるのでお願いしたい。 ・縦割りなど普段の横割りからとは違った息抜きできる繋がりで良いと思う。年齢差からの優しさ、尊敬、憧れは相乗効果がある。 ・集団での訓練や仲間意識を養う事は、コロナウイルス感染拡大中では大変だが大事な成長時期である。現行の先生方の指導を評価するので宜しくお願いしたい。
		児　童	思いやりや感謝の心が育っている	95	96			
		保護者	思いやりや感謝の心がよく育ってきていると思う	80	90			
	「いつでも、どこでも、何度でも」を合言葉に「明るく元気なあいさつ」を推進する	教職員	挨拶や返事の指導を意図的・計画的に行っている	90	100	・挨拶については、校長の毎朝の挨拶まわり、全校集会での生徒指導担当者による話、委員会での挨拶運動などを通して挨拶をする意識が高まった。日中、廊下でも「こんにちは」の挨拶が響くようになってきた。しかし、名前を呼ばれての返事は小さい児童がまだ多い。	・挨拶・返事などの基本的なことは、今年度同様、学校全体の共通理解のもと、繰り返し指導していく。さらに、習慣化が図れるように家庭とも連携をはかり根気よく指導していく。	・校内での挨拶が向上しているのは嬉しい。家庭との連携を図るということなので、さらによくなることを期待する。子ども達が利用する公共の場(公民館など)で、進んで挨拶してくれる子が、さらに増えると嬉しい。 ・朝の街頭指導時もほとんどの児童が挨拶をしているので、すばらしいと感じることがある。 ・大変、よく出来ている。耳の遠い独り暮らしのお婆さんに毎日、「こんにちは」と声を掛けてくれている児童がいる。しかし、お婆さんは気がついていない。人に出会ったときに挨拶をする。その愛語によって学校全体が地域を明るくし笑顔と喜びを生み出す。
		児　童	進んであいさつをしたり、きちんと返事したりしている	93	95			
		保護者	進んで挨拶したり、しっかり返事をしたりしていると思う	80	87			
	いじめ防止へ取り組む	教職員	いじめ防止等の対策にしっかり取り組んでいる	100	100	・いじめの未然防止に向け、日頃の関わりや道徳の授業などで指導している。トラブルなどが起きた際、子どもからの訴えなどで早期発見・対応につながったケースもあった。登校を渋る児童に対しては、担任だけでなく学校全体やSC,SSWと連携して、対応することができた。	・相談旬間、いじめアンケート（児童・保護者・教員）を今後も継続して取り入れる。また、日頃からの学校・児童・保護者間の丁寧な信頼関係づくりを心がけ、いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応につなげていく。	・いじめ等のトラブルの早期発見、対応ができているのは素晴らしいと思う。これが、保護者の評価が高くなり、信頼関係を強めていることにつながっていると思う。この信頼関係からもたらされる情報が、さらなる未然防止、早期発見、対応に生かされるという好循環も期待できるのではないか。 ・芦原小学校の大きな課題「登校渋り」に、しっかりチームで対応できているとのことで感謝する。 ・児童間の小さなトラブルも普段から担任の先生を含めて注視してほしい。不登校や朝の通学時に泣く子供がいるとの話をたまに耳にする。粘り強く先生と保護者とでサポートしてほしい。 ・常日頃から大事なのは、いじめ防止取り組みである。学校、家庭、地域の連携が大事である。児童は民生委員児童委員は何する人なのか、地域の誰が民生委員児童委員かを知らない。2年前に、民生委員児童委員協議会が、いじめ防止DVDを制作したが、コロナウイルス感染予防のために芦原小学校での試聴会が延期中である。連携の一端を担いたく思う。 ・「いじめ」については目に見えない心のものであることがある。小学校でもひき続き心をくみとり普段の会話から気付く友達関係をみとっていただきたい。
		児　童	相手の気持ちを考えて話したり行動したりできている	80	92			
		保護者	いじめや不登校のない学校づくりに取り組んでいると思う	80	94			
開かれた学校・連携	ふるさとに愛着をもち、大切にする子を育てるため、ゲストティーチャー、地域、下学年との連携をさらに深めた体験的学習に取り組む	教職員	ふるさとに愛着をもつ指導や活動に取り組んでいる	90	92	・町探検や自然体験学習等を実施する際に、児童がふるさとがより好きになるよう教職員が意識し、事前学習や事後学習を行った。その成果が数値と表れたと考える。児童が体験したり学んだりしたことをどのような手段・方法で振り返らせるか、さらに、それをどのように家庭や地域に発信していくかが課題である。	・引き続きふるさと学習の全体計画を見直す。ふるさと教育でどのような力をつけたいか、学年の系統性を重視した見直しをする。「温泉街」を中心にした学習計画を立てる。また、新たな教育資源を開拓する。その中で地域活性化につながる体験をさせたり積極的に発信させたりすることで「自分たちでまちを盛り上げていく」経験をさせる。	・今年度は公民館での「ふるさと学習」などの発表に協力いただき感謝している。来館者の方々にも大変好評であった。新しい取組を考えておられるようなので、今後も継続をお願いしたい。 ・JAもこうした活動にも積極的に参画していけるので声を掛けてほしい。主として田畑で生産している米、丘陵地での西瓜、梨等の生産物について ・ふるさとには生きた教材があり、それを教えてくださる温かい人が大勢いらっしゃる。あわらの人、もの、ことを知り、ふるさとを離れて生活するようになっても、臆せず人と関わり、ふるさとのことを思い出し、自分に自信をもち、ふるさとに誇りと愛着をもつ子へと成長を願う。温泉街を中心にした学習計画を是非薦めてほしい。 ・芦原小学校校区の産業は観光業を主としていますが、コロナ禍で非常に困難な状況下と言えます。校外学習も難しい状態ですから、地域の歴史など考慮されたら如何でしょう。
		児　童	あわら市のことが好きになった	90	89▲			
		保護者	あわら市のことが好きになっていると思う	80	93			
	各種たより、ホームページ、緊急メールを活用し、丁寧な情報発信をする	保護者	学校公開等により、子どもたちの様子がよく分かった	90	70▲	・地区別に時間設定し授業参観を行った。マラソン大会、運動会やなわとび大会は参観者を制限し公開した。また、児童の様子や学校からの連絡は各種おたよりやホームページでこれまで通り発信した。しかし、コロナ禍での情報発信について、その手段や方法を考えなければならない。	・各種情報発信について再考する。特にホームページについては、保護者が見たいと思うような内容・様式に見直す。また、負担にならない更新方法に見直すなど、その運営方法を含めた見直しをする。	・(読書活動のところでも触れたように、)ホームページの充実は「学校生活の見える化」という面でも大切なことに思える。コロナ禍で、開かれた学校の取組も大きく制限されているので、ぜひ見直しに取り組んでほしい。保護者の方から喜ばれると思う。 ・ホームページの件については、広報委員会でも今後、検討してみて欲しい。
		教職員	情報を迅速・正確に発信している	90	88▲			
		保護者	知りたい情報をよく知り得ることができた	91	87▲			